

教 育 長 様

研究コース	グループ研究Aコース	選定番号	27
校 園 コード(代表者校 園 の市費コード)	561155		

代表者 校 園 名: 大阪市立本田小学校  
校 園 長 名: 銭本 三千宏  
電話: 6581-1531 FAX: 6581-3194  
申請者 校 園 名: 大阪市立本田小学校  
職 名・名 前: 校長 銭本 三千宏  
電話: 6581-1531 FAX: 6581-3194  
代表者校 園 事 務 職 員 名: 大谷 由香

校 印

## 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	<b>資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実践的研究</b> <b>-----授業へ効果的にICTを活用するために-----</b>			
3	研究目的	<p>◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等)</p> <p>「ゴールを明確にした逆向き設計論に基づくカリキュラム」 WHERETO 「主体的・対話的で深い学び」の創造 「ICTを効果的に活用した学び」の活用 「小学校でどのような資質・能力が身に付けなければならないのか」という学習内容のゴール パフォーマンス評価 ポートフォリオ評価 eポートフォリオ評価 ルーブリック</p> <p>平成27年3月に第1回日本・OECD政策対話「2030年に向けた教育の展望」が報告され、2045年には人工知能(AI)が人間の知能を超える転換点(技術的特異点)を迎えると予想されている。そして、人類はAIと共に生きなければならないとも言われ、現在の児童が社会人として活躍する時代には指数関数的な変化が予想される。以上の時代の要諦をふまえ新学習指導要領では「新しい時代に求められる資質・能力の育成」が求められている。本研究の目的は、6年に渡り取り組んできた「ICTの授業での効果的な活用方法の研究」をふまえ、新しい時代に求められる資質・能力の育成を育む「社会に開かれたカリキュラム」を創造し、マネジメントし、学びがいのある授業を児童に提供することである。</p>			
4	取り組んだ研究内容 公開授業は (ICT活用を含む)	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>5月29日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 6月15日 第1回公開授業 和歌山大学 豊田充崇先生(3年社会科・4年総合的な時間・5年外国語+プログラミング 参観者150人) 7月4日 逆向き設計論による授業研究会 京都大学 北原琢也先生(6年社会科 校内研究授業) 9月12日 パフォーマンス課題に焦点をあてた授業研究会 京都大学 石井英真先生(1年国語科 校内研究授業) 10月3日 学習内容の系統性に焦点をあてた授業研究会 関西学院大学 佐藤真先生 (3年体育科 校内研究授業) 10月10日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 10月11日 図画工作科公開授業 筑波大学附属小学校 笠雷太先生(5年生図画工作科 参加者60名) 10月15日 理科公開授業 筑波大学附属小学校 佐々木昭弘先生(6年生理科 5年理科 参加者50名) 10月26日 第2回公開授業(情報教育を含む) 武蔵大学 中橋雄先生(参加者150名) 10月26日 算数科公開授業 京都教育大学附属小学校 樋口万太郎先生(4年算数科 6年算数科 参加者60名) 以下、紙面の都合で詳細は省く 11月13日 音楽科公開授業 筑波大学附属小学校 平野次郎先生(参加者80人) 11月16日 逆向き設計論による授業研究会 兵庫教育大学 奥村好美先生 11月30日 ルーブリックのあり方を軸にした授業研究会 兵庫教育大学 奥村好美先生 12月12日 新学習指導要領と逆向き設計論を軸にした授業研究会 関西学院大学 佐藤真先生 1月8日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 1月25日 第3回公開授業(プログラミング学習を含む) 和歌山大学 豊田充崇先生(参加者100名)</p>			

5	成果・課題	<p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p>○ 「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」といった資質・能力を育成することをめざした授業・カリキュラムデザインを公開することができた。研究会参加者からは『それぞれの学年の授業で指導者がいつ、どこで、誰を対象にしているかが明確にされ、児童が自らの問題意識を授業の中での活動に昇華し、目的意識をもって活動していた。』『レベルの高さに終始驚きました。こんなに楽しければ児童の意欲・関心は高まり、学びは深まると思います。』などの多くの意見が寄せられた。</p> <p>○ 新学習指導要領の趣旨を実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進の仕方を実践的に提案することができた。ウィギンスとマクタイの「理解をはかるカリキュラム」の講読会を10回にわたって行い、「逆向き設計論」を本校教員全員が理解することで、ゴールを明確にしたカリキュラム。パフォーマンス課題を設定し、学習活動をフレキシブルに行うカリキュラム。ペーパーテストのみならずルーブリックを活用したパフォーマンス評価を統合したカリキュラム・マネジメントがスタートできた。その研究の一端を公開授業の資料に入れたところ「情報活用能力観点別一覧表が非常に役に立つ。」という研究会参加者からの多くの意見をもらうことができた。</p> <p>○ 「ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学び」を実際に授業公開し、「どのように児童は学ぶか」を提案することができた。様々な場面での「ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学び」を提案したいと考え、国語科・算数科・社会科・理科・図工科・体育科・音楽科の教科とプログラミングを取り入れた総合的な学習や教科指導等、幅広い実践を公開した。「初めてあそこまでしっかりプログラミングを授業で行っているのを見ました。ペアでmicrobitを活用して、目的を実現しようとしている時、なかなかできず『なんで音が流へんのやろ』という疑問が、授業の最後で『流れた』という時、児童が心の底からやりがいを感じていると思いました。」「授業時間を過ぎて子どもが夢中でアプリを操作して楽しみながら学習していることに驚きました。」「社会に役立つプログラムをそれぞれが考えてつくっているのがよかった。自分たちの生活にプログラミングを役立てようとする姿勢が素晴らしい。二年生のはこの形はイメージしにくい学習内容だが、GeoGebraを使うことでイメージを持ちやすかった。」などの多くの参加者からの意見があった。</p> <p>○ 資質・能力を育成するための評価方法、特にパフォーマンス評価のあり方を公開し、「汎用的なスキルの評価法」を提案することができた。汎用的なスキルはペーパーテストによって測定することが難しく、参観者は評価の客観性を担保することが難しいと考えていたようだが、ルーブリックを明確にし、指導者自身が児童と十分確認すれば客観性を担保するだけでなく、児童の意欲を喚起することにもつながると理解を図ることができた。参観者からは「ルーブリック、情報活用能力観点別一覧表をまとめるなど学校全体で組織的に共通して取り組んでいる様子がよくわかった」「ルーブリックの設定の仕方などを詳細に学びたい」などの意見を頂いた。</p> <p>○ 学校協議会の委員、保護者・地域、大阪市内外の教員に本研究の成果を公開し、本校の教育のステークホルダーの拡大を図ることができた。学校協議会やPTAの実行委員会、総会などで保護者や地域の方から「本田小学校の先生は私たちの誇りだ」という意見を頂いた。</p> <p>○ 公開授業については参観者に授業アンケートを行う。アンケート形式についてはICTモデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用する。肯定的な意見が98%であった。次回の研究会に参加したいかという項目でも、全員が「またきたい」と回答していた。プログラミング体験や本校の取り組み報告、講師による講演会に参加者が非常に熱心に参加しているのが印象的であった。</p> <p>○ 経年調査を活用し、児童の「知識・技能」をはじめとする学習状況で成果を検証し、前年度より高い学習の習得を目指した。どの学年寝どの教科も大阪市の平均を上回り、着実に学習の定着をはかることができた。</p> <p>○ 大学関係者(和歌山大学 豊田充崇先生、京都大学 北原琢也先生、兵庫教育大学 奥村好美先生、関西学院大学 佐藤真先生、武蔵大学 中橋雄先生、兵庫教育大学 徳島 祐彌先生、京都大学 石井英真先生等)から本研究のコメントやアセスメントをいただいた。どの講師の先生からも本校教職員の教育研究にかけける情熱と斬新なアイディアを評価していただいた。</p> <p>○ 公開授業・研究会の参加者の延べ人数が200名以上を目、合計700名を超える参観者があった。</p>								
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table><tr><td>日 程</td><td>平成 31 年 1 月 25 日</td><td>参加者数</td><td>約 100 名</td></tr><tr><td>場 所</td><td colspan="3">大阪市立本田小学校</td></tr></table>	日 程	平成 31 年 1 月 25 日	参加者数	約 100 名	場 所	大阪市立本田小学校		
日 程	平成 31 年 1 月 25 日	参加者数	約 100 名							
場 所	大阪市立本田小学校									

※上記の内容について、原則として**フォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)**で作成し、**平成31年2月25日(月)までに**、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)